京都府京田辺市

# 市内遺跡試掘調査報告書

２０２４

京　田　辺　市

# 市内遺跡試掘調査報告書

京　田　辺　市

# 序

京田辺市は、京都・大阪・奈良の中間に位置する、優れた交通利便性と豊かな自然に恵まれたまちです。古くから交通の要衝として発展し、国指定史跡綴喜古墳群や、一休禅師が晩年を過ごした寺として知られる酬恩庵一休寺など、多彩な文化財が所在しています。

本市では、このような先人が残した貴重な文化財を保護し、啓発するための事業のひとつとして市内遺跡の発掘調査を継続して実施しております。

本書は、令和５年度に実施した田辺公園拡張整備事業に伴う興戸遺跡・興戸廃寺の試掘調査の成果をまとめたものです。

発掘調査及び報告書の刊行にあたっては、京都府教育委員会をはじめとする多くの方々にご指導、ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも、文化財の保護と普及にご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和６年３月

京田辺市長　上村　崇

# 例　言

1　本書は、令和５年度に京田辺市が実施した試掘調査の報告書である。

2　本書に収めた調査対象遺跡、調査担当者は下表のとおりである。

| 遺跡名 | 調査年度 | 所在地 | 調査主体 | 調査担当者 | 調査期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 興戸遺跡<br>興戸廃寺 | 令和５年度 | 京田辺市<br>興戸小モ詰<br>興戸山添 | 京田辺市 | 上野あさひ<br>江本　迪香<br>菊池　万理 | 令和５年５月 16 日～<br>令和５年６月 23 日 |

3　調査は、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金及び埋蔵文化財緊急発掘調査補助金の交付を受け実施した。

4　本書の執筆及び編集は、京田辺市市民部文化・スポーツ振興課が行った。

5　本書に掲載した地図は、京田辺市基本地形図である。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲は京都府・市町村共同ポータルサイト（http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/top/index.asp）に掲載する文化財ＧＩＳデータを基に作成した。

6　本書で使用した方位記号は、座標北を表す。

7　調査で出土した遺物及び作成した記録類は、京田辺市で保管する。

8　遺構写真は調査担当者が撮影し、遺物写真は株式会社文化財サービスが撮影を行った。

9　土砂除去作業及び図化作業は株式会社島田組京都営業所に委託した。また出土遺物の整理作業は、株式会社文化財サービスに委託した。

10　発掘調査及び報告書の作成にあたり、下記の機関、個人に多大なる協力を得た。記してお礼申し上げます（五十音順、敬称略）。

伊野近富、京都府教育庁指導部文化財保護課、社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会山城就労支援事業所「さんさん山城」

# 目　次

第１章　位置と環境……1
第２章　調査の概要……5

## 挿図目次

第１図　遺跡の位置……1
第２図　周辺遺跡の分布図……2
第３図　調査区配置図……6
第４図　第２調査区　平面図……7
第５図　第２調査区　断面図……8
第６図　第２調査区　遺構断面図……9
第７図　第３調査区　平・断面図……10
第８図　第４調査区　平・断面図……11
第９図　出土遺物……13

## 付表目次

付表１　遺物観察表……14

## 図版目次

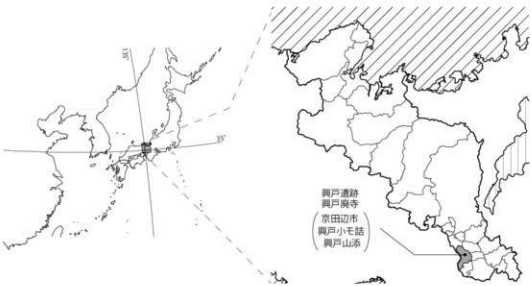
図版第１　（１）第２調査区　第１面検出状況（西から）
（２）第２調査区　第１面完掘状況（南から）
（３）第２調査区　第２面完掘状況（西から）
図版第２　（１）第３調査区　検出状況（南から）
（２）第３調査区　検出状況（西から）
（３）第３調査区　SP03（南から）
図版第３　（１）第４調査区　完掘状況（東から）
（２）第４調査区　完掘状況（北から）
（３）第４調査区　断面図（北から）
図版第４　（１）出土遺物　須恵器（表）
（２）出土遺物　須恵器（裏）
図版第５　（１）出土遺物

# 第１章　位置と環境

## １．地理的環境

京田辺市は、京都府南部の南山城地域の北西部、木津川左岸に位置する。北は八幡市、南は精華町、木津川を挟んで東は城陽市及び井手町、西は生駒山系に連なる田辺丘陵を挟んで大阪府枚方市及び奈良県生駒市と境界を接している。市の東部には木津川が流れ、木津川によって形成された沖積平野が広がり、西部には田辺丘陵とそこから流れ出る木津川支流によって形成された扇状地が広がる。支流としては手原川、馬坂川、防賀川などが挙げられるが、これらの河川はいずれも天井川となり、河川の下を道路や線路が通るという、木津川岸に特徴的な景観を生み出している。

興戸遺跡は、京田辺市中心部の平地に位置し、丘陵部の東端に接している。遺跡の範囲は、南北1.5km、東西0.8kmにわたる。




第１図　遺跡の位置

## ２．歴史的環境

縄文時代以前の遺跡は少ないが、旧石器時代の遺跡としては、市内南部の山間部に所在する高ケ峯遺跡が知られており、サヌカイト製石核が採集されている。縄文時代の遺跡としては、後期の集落遺跡である薪遺跡（37）が近在し、柱穴や土坑などが検出されている。また、市内南部の三山木遺跡（62）からは、晩期の土器が出土している。三山木遺跡に近接する山崎遺跡（64）からは、石棒や異形石製品が出土している。

弥生時代前期の遺跡としては、土坑などが見つかった宮ノ下遺跡(66)が挙げられる。三山木遺跡(62)では前期の遺物包含層が検出され、石器や碧玉製管玉の生産が行われていたことが確認されている。中期では、興戸遺跡の西側の丘陵上に位置する中世の田辺城跡（15）の下層から、竪穴建物や方形周溝墓が見つかっているほか、南垣内遺跡（26）でも方形周溝墓が検出されている。後期では、集落遺

**1.興戸遺跡**　**2.興戸廃寺**　**3.郡塚古墳**　**4.興戸1号墳**　**5.興戸2号墳**　**6.興戸4号墳**
**7.興戸5号墳**　**8.興戸6号墳**　**9.興戸7号墳**　**10.興戸8号墳**　**11.興戸9号墳**　**12.興戸丘陵東遺跡**
13.田辺遺跡　14.竹ノ鶏遺跡　15.田辺城跡　16.田辺奥ノ城1号墳　17.田辺奥ノ城2号墳　18.興戸丘陵西遺跡
19.興戸宮ノ前遺跡　20.興戸城跡　21.川原谷遺跡　22.興戸宮ノ前窯跡　23.酒壷古墳　24.大切遺跡
25.鍵田遺跡　26.南垣内遺跡　27.草路城跡　28.宮ノ後遺跡　29.河原遺跡　30.尼ケ池遺跡
31.小欠古墳群　32.天理山古墳群　33.稲葉遺跡　34.伝遺林遺跡　35.東神屋遺跡　36.櫃倉菊神社遺跡
37.薪遺跡　38.薪高木古墳群　39.薪狭道1号墳　40.西山1号墳　41.西山3号墳　42.牛ノ宮古墳
43.観音山古墳　44.堀切古墳群　45.西薪遺跡　46.薪城跡　47.畑山遺跡　48.狼谷遺跡
49.茂ケ谷遺跡　50.横折遺跡　51.大将軍遺跡　52.飯岡遺跡　53.飯岡車塚古墳　54.古屋敷遺跡
55.遠藤遺跡　56.野神遺跡　57.田中東遺跡　58.東角田遺跡　59.田中西遺跡　60.二又遺跡
61.上谷浦遺跡　62.三山木遺跡　63.直田遺跡　64.山崎遺跡　65.山崎古墳群　66.宮ノ下遺跡
67.南山城跡　68.南山遺跡　69.木原城館跡　70.西羅遺跡　71.芝山遺跡　72.口駒ケ谷遺跡
73.口駒ケ谷古墳　74.多々羅遺跡　75.七瀬川遺跡　76.田辺天神山遺跡　77.都谷北遺跡　78.都谷遺跡
79.新宗谷窯跡　80.新宗谷館跡　81.新宮前遺跡　82.新宮前遺跡　83.新宮社東遺跡　84.下司古墳群
85.マムシ谷窯跡　86.下司館跡　87.大御堂裏山古墳　88.観音寺東館跡　89.観音寺東遺跡　90.普賢寺跡

第2図　周辺遺跡の分布図（S=1/25,000）

跡として飯岡遺跡（52）や田辺天神山遺跡（76）が挙げられる。中期の田辺城跡下層を含めて、これらの集落は高地性集落であると考えられる。また、興戸遺跡西側の丘陵上には、方形台状墓（興戸5号墳）（7）が築かれている。

古墳時代前期の遺跡としては、興戸遺跡西側の丘陵上に興戸古墳群（4～11）がある。なかでも1号墳（前方後円墳、全長24 m）と2号墳（円墳、直径28 m）は首長墓として位置づけられている。2号墳は小規模な円墳だが、内行花紋鏡や、管玉・鍬形石・車輪石・石釧などの石製品、鉄剣など、豊富な副葬品が出土したことでで知られる。また、北西の丘陵上に築かれた天理山古墳群（32）は、令和3年度に実施された調査により、前方後円墳2基、前方後方墳1基からなる前期の古墳群であることが明らかになっている。また、飯岡丘陵には、市内最大の前方後円墳である飯岡車塚古墳（全長87 m）（53）が位置している。古墳時代中期には、飯岡丘陵にゴロゴロ山古墳（円墳、直径60 m）、薬師山古墳（円墳、直径38 m）、トヅカ古墳（円墳、直径25 m）が築造され、同一の丘陵に継続して古墳が造られている。古墳時代後期の遺跡としては、興戸遺跡の北西に位置し、10基の円墳と10基の横穴墓で構成される堀切古墳群（44）が代表的である。

飛鳥時代の遺跡としては、普賢寺（現在の大御堂観音寺）が7世紀末頃に創建されたと考えられている。普賢寺跡（90）では、飛鳥時代後期から中世にかけての瓦が採集されている。また、創建年代は不明だが、興戸遺跡内に位置する興戸廃寺（2）でも、飛鳥時代後期から平安時代の瓦が採集されている。寺院のほかにも、普賢寺の付近には、飛鳥時代末の須恵器窯である新宗谷窯跡（79）が位置する。

奈良時代には、平城京から全国へ伸びる官道が整備され、京田辺市域には山陽道が設置された。現在の府道木津八幡線がこれをほぼ踏襲すると考えられており、興戸遺跡内も通過している。興戸遺跡内では、この古代山陽道に沿って西へ約30°振れる溝や掘立柱建物が検出されている。遺物では、井戸から墨書土器や土馬などが、包含層からは二彩陶器も出土しており、官衙的性格が伺える。

興戸遺跡は平安時代の遺跡としても顕著な調査成果があり、掘立柱建物や井戸などが検出され、緑釉陶器や灰釉陶器が多く出土している。平安時代の遺跡としては、ほかに市南部の三山木遺跡でも掘立柱建物や井戸が見つかっている。三山木遺跡付近には奈良時代に山陽道の山本駅が置かれたと考えられており、これらの遺構はその機能を引き継いだ施設のものである可能性が考えられる。

中世の遺跡としては、薪遺跡で在地領主の居館跡や園池の遺構が検出されている。遺物は13世紀後半から14世紀前半を中心とし、多量の土師器皿とともに白磁四耳壺、青磁盤等の優品が出土している。中世後半から近世にかけては、付近に田辺城や興戸城が築かれ、田辺城跡では15世紀から16世紀にかけての堀切や石組遺構が検出されている。また、普賢寺川沿いには草路城（27）、南山城（67）、都谷館（78）、新宗谷館（80）など複数の城館が築かれた。（上野）

# 第２章　調査の概要

## １．調査に至る経緯

興戸遺跡は、京田辺市興戸に位置する、縄文時代から中世にかかる複合遺跡である。周辺には京田辺市役所や田辺警察署、京田辺市立田辺中学校などが位置しており、市の中心部であることから開発行為も多く、本発掘調査がこれまで 19 次にわたり行われている。遺跡内には興戸廃寺も重なって位置するが、廃寺に関わる遺構が検出された例はなく、瓦の採集にとどまる。

平成 28 年度より、本市では、京都府立農事試験場（後の府立山城園芸研究所、現在は廃止）の跡地において田辺公園拡張整備事業に着手した。これを受けて、令和元年度には、本市教育委員会が施工予定地の一部で試掘調査を実施した。その結果、奈良時代から平安時代にかかる遺構面の存在が確認されている。令和３年度、田辺公園拡張整備範囲内に伴い調整池を建設するにあたり、興戸第 19 次調査を実施した。その結果、古山除・山陽併用道路に沿う飛鳥時代の溝を検出した。

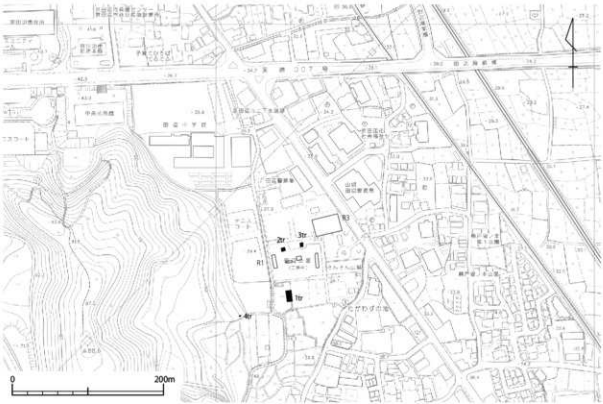
その後、具体的な開発計画が提案されたことを受け、遺跡の削平が見込まれる地点において令和５年５月 16 日から６月 23 日まで試掘調査を実施した。

本書は、本市職員が執筆・編集を行った。現地調査及び整理作業にご協力いただいた機関、学識経験者の方々には心から感謝を申し上げる。

《調査体制》

調 査 主 体　京田辺市
調査責任者　京田辺市長　上村　崇
調 査 指 導　京都府教育委員会・京田辺市文化財保護審議会
調査担当者　京田辺市市民部文化・スポーツ振興課　上野　あさひ
同　江本　迪香
同　菊池　万理

発掘作業委託　株式会社島田組京都営業所
整理作業委託　株式会社文化財サービス




第３図　調査区配置図（S= 1 /5,000）　※黒塗りが令和５年度試掘調査区

## ２．第１調査区

第１調査区は、社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会山城就労支援事務所「さんさん山城」の南西に設置した、南北約 15m、東西約８m の調査区である。

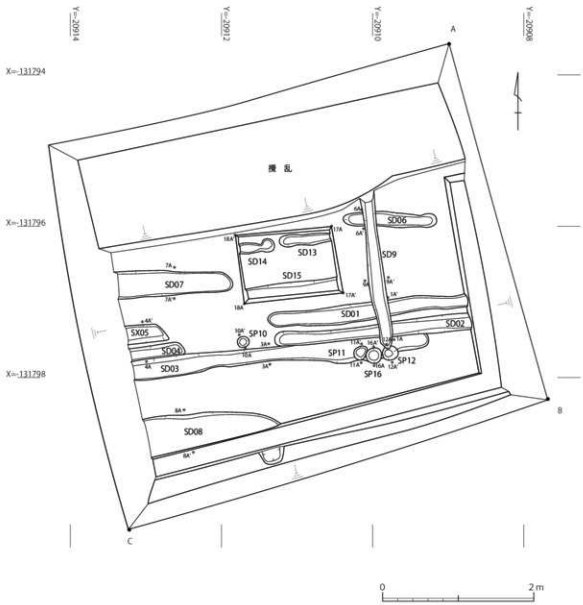
調査の結果、標高 39.0 ～ 39.2m 付近でピットや溝を検出し、布目瓦や緑釉陶器の出土が認められたため、掘削を最低限に留め、事業担当課と本調査に係る協議を実施した。その結果、遺構の保存が困難な範囲については第１調査区を拡張し、本調査を実施することになった。そのため今回の調査では遺構の検出時点で掘削を中止し、本調査へ移行した。第１調査区を含めた本調査の成果については改めて報告書の刊行を予定している。（上野）

## ３．第２調査区

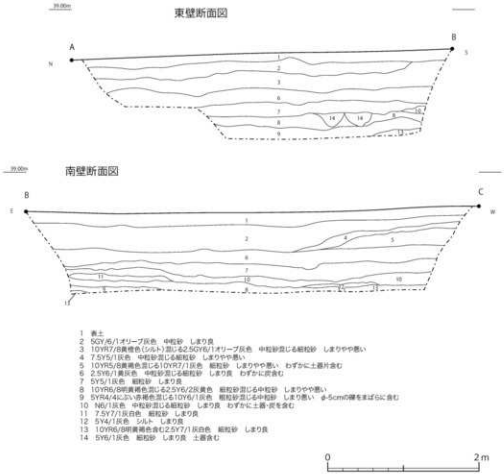
第２調査区は、事業予定地の北西に設定した東西 5.5 m、南北 5.2 m の調査区である。調査区北側は撹乱を受けており、調査区中央から南側で遺構検出を行った。調査の結果、標高 37.1 m で第１遺構面を確認した。また、調査区中央部に設定した断割から標高 37.3 m で第２遺構面を確認した。

〔第１面〕溝８条、ピット４基、性格不明遺構１基を検出した（第４図）。

８条の溝は耕作溝と考えられる。溝 SD01 ～ 04、性格不明遺構 SX05、SD06 ～ 08 は東西方向に並列しており、SD09 はそれらに直交するように南北方向に伸びる。SD03 は、遺構の重なりから SD02、SD09、SP11、SP12、SP16 より古いと想定され、第１面の遺構の中では比較的古い遺構であ




第４図　第２調査区　平面図（S= 1 /50）




第５図　第２調査区　断面図（S= 1 /50）

る事と考えられる。

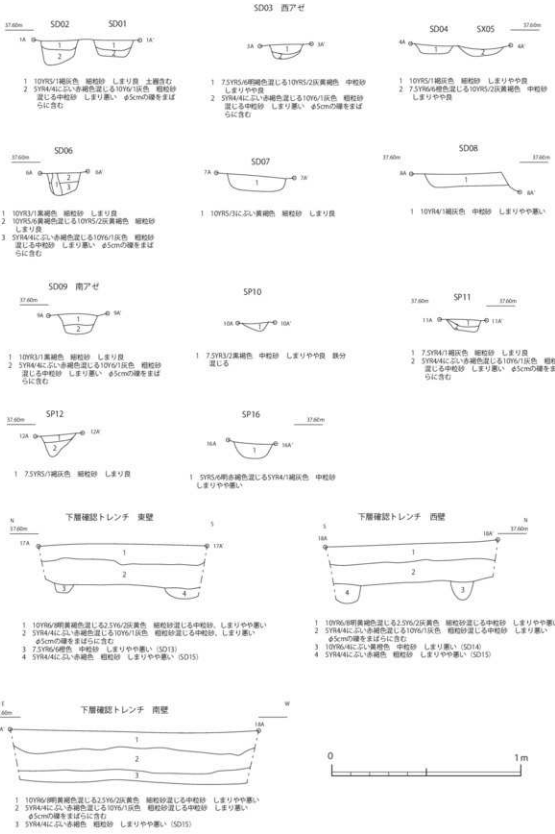
SD03 から焼締陶器の破片（第９図 10・11）が出土した。また、調査区南東に設定した断割から須恵器の甕（第９図４・６）、瓦器の椀（第９図７）、青磁の小椀（第９図８）が出土した。

〔第２面〕溝を３条検出した（第４図）。SD13 ～ SD15 はいずれも東西方向に並列して伸びている。遺物の出土は認められなかった。（江本）

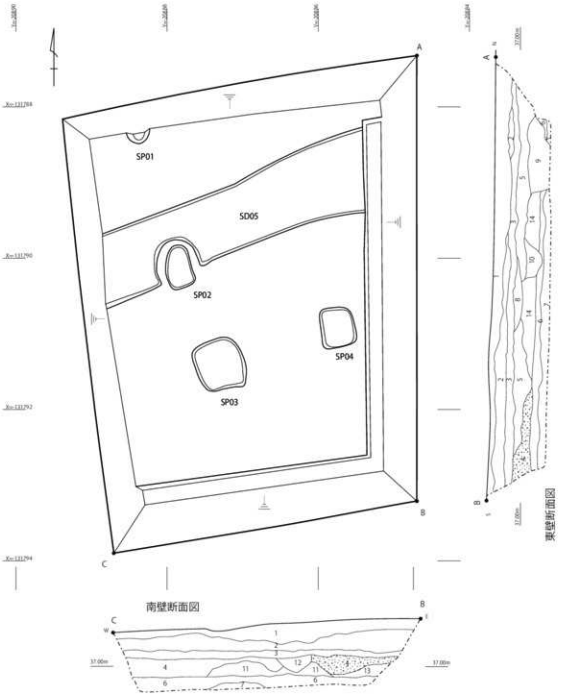
## ４．第３調査区

第３調査区は事業予定地の北東に設置した、南北 5.9m、東西 4.8m の調査区である。調査区からピットと溝を検出した。標高は 36.8m を測る。ピットは４基検出した（SP01 ～ 04）。そのうち SP03 と SP04 の掘方は長方形を呈し、柱根とみられる痕跡が残る。SP01 から SP03 は南北方向、SP03 と SP04 は東西方向に検出していることから柱列とみられる。

調査区中央付近に南西から北東にはしる幅約１m の溝（SD05）を検出した。検出長は約 3.8m を測る。SP02 と重複して検出しているが、SD05 の埋土中に SP02 の埋土が被ることから、溝は SP02 より古いものと考えられる。また SD05 の黒褐色埋土から須恵器の杯身（第９図１）が出土した。（上野）



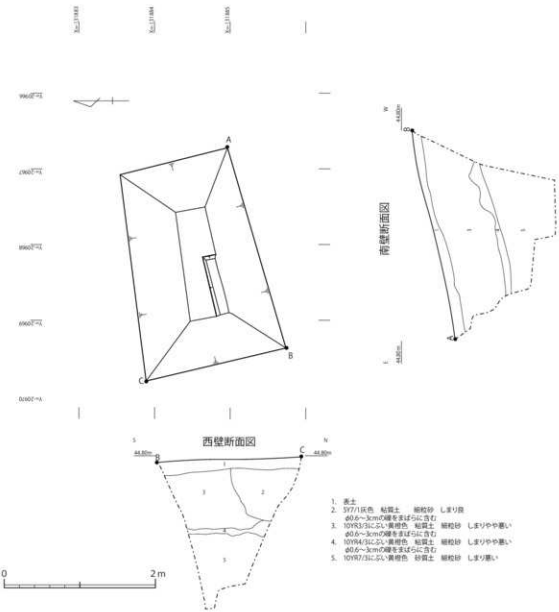

第６図　第２調査区　遺構断面図（S= 1/20）




1　表土
2　N7/0灰白色混じるN7/灰白　細粒砂　しまり良
3　7.5YR7/8黄橙色混じるN7/灰白　細粒砂　しまりやや悪い
4　10YR6/1褐灰色　中粒砂混じる細粒砂　しまり悪い　φ1cmの礫を多量に含む
5　10YR3/3暗褐色　混じる2.5Y7/1灰白色　細粒砂　しまり良
6　7.5Y6/1灰色　シルト　しまり良
7　10Y7/1灰白色　粗粒砂　しまり悪い
8　7.5YR5/3にぶい褐色混じるN7/灰色　細粒砂　しまり良
9　10YR3/2黒褐色　中粒砂混じる細粒砂　しまり良　土器含む(溝埋土)
10　10YR5/1褐灰色　細粒砂混じる中粒砂　しまり良　土器含む(ピット埋土)
11　2.5Y6/2灰黄色　細粒砂　しまり良
12　5Y7/1灰白色　細粒砂　しまりやや悪い(ピット埋土)
13　7.5YR5/1褐灰色混じる7.5Y6/1灰色細粒砂　しまり良　瓦片含む
14　7.5Y6/1灰色　細粒砂　しまり良

0　2m

第７図　第３調査区　平・断面図（S= 1 /50）




第８図　第４調査区　平・断面図（S= 1/50）

## ５．第４調査区

田辺丘陵東側斜面裾部の標高約 44.8m 地点に設定した、南北約 1.45 ～ 1.9m・東西約 2.75m の調査区である。平成６（1994）年に実施した第 12 次調査では、当調査区北側の標高約 40.8m 地点から、13 世紀を中心とした遺物包含層が検出されたほか、平安時代後期の銅鏡をはじめ奈良～鎌倉時代の遺物が数多く出土している。

層序は、表土直下に直径 0.6 ～ 3cm の礫をまばらに含む黄橙色粘質土（第３・４層）が堆積し、第５層からは黄橙色砂質土となる。また、西壁東半では固くしまった灰色粘質土が第４層上面まで堆積

する（第２層）。遺構は検出されなかったが、第３層から須恵器の杯底部片（第９図２）が１点出土した。（菊池）

## ６．出土遺物

調査では、整理箱１箱分の遺物が出土した。以下では主な遺物を調査区ごとに概観する。

**第２調査区**　土師器、須恵器、瓦器、青磁、染付陶器、焼締陶器が出土した。そのうち図化し得た主な遺物は９点（第９図３～11）である。

３～６は須恵器の甕の破片であり、内外面にタタキ調整がみられる。７は瓦器椀の口縁部である。残存高 3.4cm を測る。外面ヨコナデとオサエ、内面は摩滅が著しいがヨコナデ調整を施す。８は龍泉窯青磁の小椀である。器高 1.6cm、底径 2.6cm を測る。高台裏までの全体を施釉し、畳付にナデ調整を施す。室町時代のものである。９は染付磁器の小椀である。破片であるが底部から口縁部まで遺存する。器高 1.6cm、底径 2.7cm を測り、口径は 7.9cm に復元できる。内外面ともに施釉する。10・11 は焼締陶器の甕とみられる。10 は残存高 7.9cm を測り、外面調整はヨコナデ、内面調整はオサエのちヨコナデを施す。内面には粘土紐の接合痕がみられる。焼成は良好で堅緻である。胎土に長石や石英を含む。11 は残存高 8.2cm を測る。外面はヨコナデとヨコハケ､内面はオサエのちヨコナデを施す。色調は浅黄橙を呈し、胎土に 3mm 大の白色粒を含む。10 と比較してやや焼成が甘い。

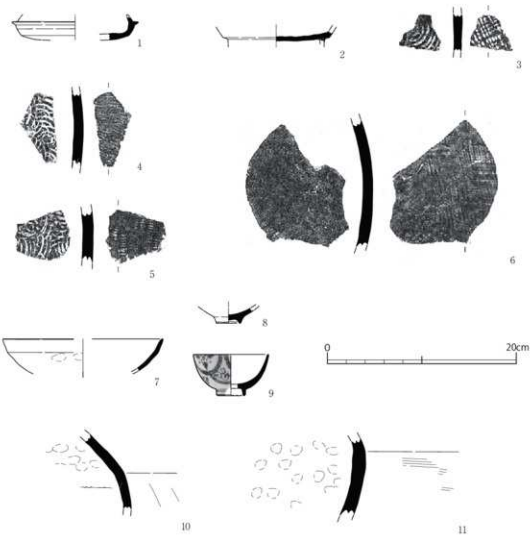
**第３調査区**　土師器と須恵器の破片が出土した。土師器は小片であり時期や器種の特定には至らない。１は須恵器の杯身である。残存高 2.5cm である。外面調整に回転ヘラケズリと回転ナデ、内面に回転ナデを施す。胎土は密で、焼成は良好である。色調は内外面ともに灰色を呈する。陶邑編年の TK209 型式期に位置付けられ、古墳時代末から飛鳥時代のものとみられる。

**第４調査区**　土師器･須恵器･陶器の破片が出土した。２は須恵器の杯身の底部である。残存高 1.3cm を測り、貼付高台を有する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。胎土は密で、焼成は良好、色調は灰色を呈する。

## ７　総括

今回設定した調査区は、研究所の建物により一部攪乱された部分もみられたが、第２調査区と第３調査区で遺構を検出し、すべての調査区から遺物が出土した。とりわけ第３調査区では柱列になるとみられるピットを検出し、建物跡の存在が考えられる。

田辺公園拡張整備事業に伴い実施した発掘調査は、令和元年度の試掘調査（京田辺市 2023）で４箇所、令和３年度の興戸遺跡第 19 次調査（京田辺市 2022）で１箇所、今回の試掘調査で４箇所の合計９箇所となった。研究所建物の建設を免れた場所については古代の遺構面が遺存していることが確認された。また事業予定地は南側が高く北側へ下がる地形であり、それに伴って遺構面の検出高も標高 36.7m から 39.2m と高低差がみられることが分かった。（上野）




第９図　出土遺物（S= 1 / 4）

表１　遺物観察表

| 報告番号 | 調査区 | 種類 | 器種 | 法量 (cm)<br>推定：( ) | 調　整 | 色　調 | 胎土 | 焼成 | 残存率 | 反転復元 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 3tr | 須恵器 | 杯身 | 口径：—<br>残存高：(2.5)<br>底径：— | 外：回転ヘラケズリ、回転ナデ<br>内：回転ナデ | 内：灰 N6/0<br>外：灰 N6/0 | 密 | 良 | 底部<br>1/6 | あり | TK209 |
| 2 | 4tr | 須恵器 | 杯身 | 口径：—<br>残存高：(1.3)<br>底径：— | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ | 内：灰 N6/0<br>外：灰 N6/0 | 密 | 良 | 底部<br>1/10 | あり | 杯 B |
| 3 | 2tr | 須恵器 | 甕 | 口径：—<br>残存高：(4.1)<br>底径：— | 外：タタキのちカキ目<br>内：タタキ | 内：灰 N6/0<br>外：灰 N6/0 | 密 | 良 | 破片 | なし | |
| 4 | 2tr | 須恵器 | 甕 | 口径：—<br>残存高：(8.0)<br>底径：— | 外：タタキのちカキ目<br>内：タタキ | 内：灰白 N7/0<br>外：灰 N6/0 | 密 | 良 | 破片 | なし | |
| 5 | 2tr | 須恵器 | 甕 | 口径：—<br>残存高：(5.7)<br>底径：— | 外：タタキのちハケ<br>内：タタキ | 内：灰 N6/0<br>外：灰 N6/0 | 密 | 良 | 破片 | なし | |
| 6 | 2tr | 須恵器 | 甕 | 口径：—<br>残存高：(13.5)<br>底径：— | 外：タタキのちカキ目か<br>内：ナデのちタタキ | 内：灰 N6/0<br>外：灰 N6/0 | 密 | 良 | 胴部 | なし | |
| 7 | 2tr | 瓦器 | 椀 | 口径：(16.9)<br>残器高：(3.4)<br>底径：— | 外：ヨコナデ、オサエ<br>のちナデ<br>内：ヨコナデ | 内：灰 N7/0<br>外：灰 N7/0 | 密 | 良 | 口縁部<br>1/10 | あり | |
| 8 | 2tr | 青磁 | 小椀 | 口径：—<br>残存高：(1.6)<br>底径：2.6 | 外：施釉、ケズリ出し高台<br>内：施釉 | 胎：灰白 N7/0<br>釉：オリーブ<br>灰 5GY6/1 | 密 | 良 | 底部<br>3/5 | なし | |
| 9 | 2tr | 染付磁器 | 小椀 | 口径：(7.9)<br>器高：4.4<br>底径：(2.7) | 外：施釉、ケズリ出し高台、<br>釉ハギ<br>内：施釉 | 胎：白 N9/0<br>釉：透明・青 | 密 | 良 | 1/5 | あり | |
| 10 | 2tr | 焼締陶器 | 甕 | 口径：—<br>残存高：(7.9)<br>底径：— | 外：ヨコナデ、ナデ<br>内：オサエのちナデ、<br>ヨコナデ | 内：にぶい橙<br>5YR6/4<br>外：にぶい橙<br>5YR6/4 | 密 | 良 | 胴部 | なし | |
| 11 | 2tr | 焼締陶器 | 甕 | 口径：—<br>残存高：(8.2)<br>底径：— | 外：ヨコナデ、ハケメのち<br>ナデ<br>内：オサエのち、ヨコナデ | 内：浅黄橙<br>7.5YR8/4<br>外：浅黄橙<br>7.5YR8/4 | 密 | 良 | 胴部 | なし | |

（参考文献）

京田辺市 2022『興戸遺跡第 19 次発掘調査報告書』京田辺市埋蔵文化財調査報告書第 45 集

京田辺市 2023『市内遺跡発掘調査報告書』京田辺市埋蔵文化財調査報告書第 46 集

田辺町教育委員会 1995『興戸遺跡第 12 次・興戸古墳群発掘調査概報』田辺町埋蔵文化財調査報告書第 19 集

田辺昭三 1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ

西　弘海 1982「土器様式の成立とその背景」『考古学論考』

# 図　　版

# 図版第１

（１） 第２調査区
第１面検出状況（西から）

（２） 第２調査区
第１面完掘状況（南から）

（３） 第２調査区
第２面完掘状況 （西から）

図版第２

（１）　第３調査区
検出状況（南から）

（２）　第３調査区
検出状況（西から）

（３）　第３調査区
SP03（南から）

図版第３

（１） 第４調査区
完掘状況（東から）

（２） 第４調査区
完掘状況（北から）

（３） 第４調査区
断面図（北から）

図版第４

（1） 出土遺物　須恵器（表）

（2） 出土遺物　須恵器（裏）

図版第 5

（1） 出土遺物

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな<br>書名 | しないじゅあしくらんちょうさほうこくしょ<br>市内遺跡試掘調査報告書 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 京田辺市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第49集 |
| 編著者名 | 上野　あさひ（編集）、江本　迪香、菊池　万理 |
| 編集機関 | 京田辺市 |
| 所在地 | 〒610-0393　京都府京田辺市田辺80番地 |
| 発行年月日 | 西暦2024年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>（㎡） | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| こうどいせき<br>興戸遺跡<br>こうどはいじ<br>興戸廃寺 | きょうたなべしたなべ<br>京都府京田辺市<br>こうどあざこうど　ごうだに<br>興戸小モ詰・山添 | 26211 | 029 | 34°48′42″ | 135°46′18″ | 20230516<br>～20230623 | 223 | 田辺公園拡張整備事業 |

| 所収遺跡名 | 種類 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 興戸遺跡<br>興戸廃寺 | 集落<br>寺院 | 古墳時代～中世 | 柱穴、溝 | 土師器、須恵器、瓦器、陶器 | |

| | |
|---|---|
| 要約 | 公園造成計画に伴い、試掘調査を実施した。一部は撹乱を受けていたが、遺構面が確認され、古代のものとみられるピットや溝を検出した。遺物は土師器、須恵器、瓦器、陶器などが出土した。 |

市内遺跡試掘調査報告書

発　行　令和６年３月 31 日
編　集　京田辺市　市民部
文化・スポーツ振興課
発　行　京田辺市
〒 610-0393　京都府京田辺市田辺 80 番地
印　刷　三星商事印刷株式会社
〒 604-0093
京都府京都市中京区弁財天町 300 番地